

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1870100953		
法人名	医療法人 富永病院		
事業所名	富永グループホーム		
所在地	福井県福井市西木田3丁目5番13号		
自己評価作成日	平成30年8月13日	評価結果市町村受理日	平成31年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/18/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=1870100953-00&amp;PrefCd=18&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/18/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=1870100953-00&amp;PrefCd=18&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年9月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当グループホームより50mぐらいの場所に母体の病院があって、スタッフ8名のうち2名が看護師ということもあり日頃から小さなことでも病院と連携し体調管理に努めております。(看護師2名のうち1名はヘルパーとして勤務)行事の際は病院の患者さんにも遊びに来ていただき良い交流ができています。10年以上勤務している職員が3人おり利用者さんとのよりよい信頼関係が構築できております。また入居者さんそれぞれの好みに合わせた活動を支援しています。ホールや食堂それぞれに居心地の良い場所で過ごしていただき、出来る作業はスタッフと一緒に手伝っていただいています。本年度より力を入れ始めたのは、音楽会です。利用者さんからの要望も多く地域のボランティアの方々やご家族の方にお願ひして音楽鑑賞の回数を増やしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所は、自治会に加入し運営推進会議には自治会長等の地域の方の参加を得て運営に関するアドバイスをもらったり、利用者と近隣の神社の祭りへの参加やボランティアの来訪による楽器の演奏を楽しんだり、地域の小学生や中学生の体験学習の来訪がある等、地域との交流を深めることでサービスの向上に繋げるよう努めています。また、事業所の認知度を上げ利用者との交流に繋がるよう事業所がある建物の一部を地域の方に開放して自由に利用してもらっています。日々の申し送りの時間を多く取り、理念を唱和して意識付けを行うと共に職員間で様々な意見を出し合い協力しながら利用者一人ひとりのペースを尊重してその人らしく暮らせるような支援に取り組んでいます。母体が医療法人であり、看護職員を中心に健康管理を行い医療との協力関係の構築に努めています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3ぐらいと 3. 家族の1/3ぐらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3ぐらいが 3. 職員の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3ぐらいが 3. 家族等の1/3ぐらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念をスタッフの目に付くところに掲示しており、申し送り時に唱和している。常に話し合い理念を共有、実践できるよう努めている。	事業所の経営理念を玄関やフロア入口、リビング等に掲示し、また理念を基に作成したキャッチフレーズをリビングに掲げ、毎日の申し送りで職員は理念を唱和して意識付けを行っています。毎日の朝と夕方の申し送りは時間を多く取ってその人らしい暮らしへの支援となるよう職員間で話し合い取り組むことで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	建物の一部を開放し地域の方々に利用していただいている。ボランティアの方々や学生さんの職場体験等、交流に努めている。	自治会に加入し、事業所の消防訓練や運営推進会議には自治会長の参加を得て情報をもらったり協力関係の構築に繋げています。利用者と近隣の神社で行われる祭り等に参加したり、地域の小学生や中学生の体験学習の受入れやボランティアの来訪による音楽の演奏を楽しむ等、地域との交流を深めています。施設の一部を地域に開放し事業所の認知度の向上や利用者との交流にも繋がりたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域の公共施設を使って講演している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告・ヒヤリハット・入居者の状況等を報告し、話し合いをしている。そこでの意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	会議は年6回家族代表や自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、活動報告や利用者の状況伝達、事故報告等を行い意見交換をしています。ボランティアの活用について意見をもらい検討し働きかけ始めたり、事故報告の際には対策まで話して支援に活かす等、会議を運営やサービスの向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が開催している講習にはなるべく参加している。介護相談員さんや地域包括支援センターとも連絡を取り合っている。	運営上の手続きや書類の提出で役所に訪問したり、行政主催の説明会に参加して情報を得て意見交換をしています。行政から研修の案内が届き可能なものには参加することで行政との関係構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っている。身体拘束をしないケアについてスタッフと定期的に話し合っている。入居者さんのひとりが2ヶ月前より身体拘束を解除している。	年1回法人の身体拘束に関する研修に職員代表が参加し内容を伝達し周知し、ホーム長は毎月法人の身体拘束廃止委員会に参加しています。フロア入口は安全上施錠していますが、外出希望の利用者には出来るだけ職員が寄り添って散歩も兼ねて外出して気分転換を図り、閉塞感の無い支援に努めています。運営推進会議時にも身体拘束についての取り組みについて話し合っています。	

富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修はなるべく参加するように努めている。事業所内で虐待が見過ごされないようお互いに声を掛け合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関しては、話し合う機会が持てていない。まず管理者がこの制度をしっかりと勉強し職員に説明、話し合いが出来るようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語を使わずゆっくり丁寧に説明を行うように心掛けている。不安な点や疑問点は遠慮なく尋ねていただけるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声を掛け、お帰りの際に少しの時間でもご家族とお話できるようにしている。職員も利用者やご家族とよく会話をしている。要望はなるべく運営に反映させたい。	利用者からの希望や要望は日々の関わりの中で聞き、様子や表情からも汲み取るように努め、家族からは面会時や電話、運営推進会等で聞いています。利用者から食事の希望を聞き提供を検討したり、家族から散歩の機会についての意見をもらい職員間で話し合い外出の機会を増やせるよう検討する等、意見を受けてサービスの向上に反映できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の仕事の中でも昼食の場でも申し送りの場でも話しやすい環境を作り、職員の意見や提案を聞くようにしている。	不定期で実施する業務改善会議や毎日行う朝夕の申し送り等で職員は意見を聞出し合い申し送りノートに記録して職員間で共有しています。利用者個々の支援方法についての意見を検討したり、物品購入の提案を受けて実現する等、意見をサービスや運営に反映しています。行事を担当する職員を決め中心となって取り組み、また管理者は随時職員の様子を見て声をかけて出来るだけ多くの意見を聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が誇りを持って働けるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験年数・就業年数に応じた研修に参加できるよう配慮している。年間計画として、興味のある研修を年度初めに選んでもらい、予定を立て実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者自身が地域に密着して近くの会場で認知症の講演会を開催している。管理者も研修に積極的に参加し同業者と交流を持っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人が困っていること等に対して傾聴と共感の姿勢を持って接している。安心と信頼を得られるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	分からない事等を含め、納得していただけるように丁寧な説明を心掛けている。聞きやすい雰囲気をつくることに努め、困っていることや不安なことを傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人とよく話し合い、何を望まれているのか聞き取りを十分に行っているが、他のサービス利用を含めた対応はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし、洗濯物をたたんでもらったり茶碗を拭いてもらったりと、出来ることは一緒にしている。人生の先輩として敬意を忘れずに接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と話し合ったり、雑談したりとなるべく気軽に話し出来る雰囲気を作るように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	食事の際や自室内にはこれまで使用した物を置き、環境面に配慮している。職員と散歩した時には近所の方達に声をかけている。	友人の来訪の際には居室へ案内し椅子やお茶を出してゆっくり過ごせるように配慮しています。また事業所に来訪するボランティアの中に利用者と馴染みの方がおり、交流を楽しんでいます。家族と自宅や墓参り等へ外出する際には日程調整や服装等の事前の準備を支援する等、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように配慮しているが、おひとり好きな方もいらっしゃるの押し付けがましくならないように注意している。トラブルの際には職員が間に入って関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院に入院されても、継続的に本人の様子をみて声掛けしたり、ご家族にお会いしたときは挨拶・話をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人さんの思いや希望に沿えるようにしている。困難な場合はご家族に相談したり代替案を職員と相談して対応している。	入居時に自宅や施設等に訪問して利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、嗜好、希望を聞き、以前の施設等からも情報を得て思いの把握に努めシートに記入して職員間で共有しています。入居後は日々の関わりの中で利用者から聞いた思いや希望は介護記録に記入し、思いや意向の把握が困難な場合には表情や行動から汲み取ったり、家族への相談や職員間で本人本位に検討して思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族や長く務めているスタッフから話を聞いたりカルテを参照して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や状態について、介護記録や生活支援の記録、水分や食事摂取量の記録を行い、細かい変化にも気が付けるように努めている。連絡帳で職員間の引き継ぎを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご高齢の利用者さんが多いので日々の変化に注意し、ご家族や本人などと話し合い現状に即した介護計画を作成するようにしている。	アセスメントを基に作成された介護計画は6か月毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時見直しも行っています。計画の見直し時には再アセスメントとモニタリングを実施し、サービス担当者会議を開き事前に聞いた家族や看護師、医師の意見を反映し利用者の現状に即した介護計画となるよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記載している。担当者会議・施設サービス内容と連動した内容になっているので計画の見直しに活かされている。		

富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応しているが、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んで入るとはいえない。今後の課題である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や学生等のボランティアの受け入れを行っている。外出希望のある方は、近所を散歩したり、一緒に買い物に行ったりと、希望に応えられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には併設のDr.の了解の上、本人または家族の希望する医療機関に受診出来るよう配慮している。その際には情報提供も行っており、重要な要件の時は家族希望などにより受診に同行する事もある。	入居時にかかりつけ医を継続するか協力医の往診を受けるか選択してもらい、現在は全員が協力医の往診を個々に応じた間隔で受けています。訪問看護師の健康管理を週1回受け、専門医の受診は家族の対応を基本としています。状況によっては職員の対応で受診しています。また利用者の状態や希望により歯科医の往診や口腔ケアを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と非常勤の看護師を配置している。日常生活の中での心身の状況把握、バイタルの確認で早期の病院受診、緊急連絡体制が確立している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時した際、状態報告を密にとり入院中も様子把握に努め病院との連携は出来ている。退院時の情報提供により、グループホームでの生活がスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の様子、身体の異常は小さいことでも全て看護師に報告し、併設のDr.からの指示に従って対応し、家族には現状報告と共に事業所の出来る範囲の事を詳しく説明している。変化に備えて事ある毎に検討し、指示を受けながら支援をしている。	入居時に利用者が重度化した際の事業所の方針について家族に説明し、基本的に看取り支援はしおらず事業所でできる限りの支援をしています。今までに家族の希望で看取り支援の経験があり、利用者の状態が進んだ際に医師から家族へ説明してもらい話し合い方針を共有し、家族の協力の下看護師が中心となり医師からも指示をもらいながら支援に取り組んだこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	少しの変化があった場合でも、その都度、報告話し合うようにしている。全体会議等で急変時に備えている。緊急時等は併設の病院から駆けつけてくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄の消防署の協力を得て、年2回、日中・夜間想定火災時における避難訓練を実施している。消火栓の使用方法等の訓練も実施している。民生委員や地域の方にも参加を呼びかけている。	年2回それぞれ昼夜想定で、いずれも消防署立会いの下、利用者也参加して通報や避難誘導等の訓練を実施しています。訓練を実施する際には、運営推進会議で自治会長や民生委員、地域の方等へ参加を呼び掛け、災害発生時の地域との協力関係の構築に努めています。今回の訓練には自治会長が参加予定です。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて職員同士で話し合い一人ひとりにあった声掛けや言葉遣いに心がけている。失禁等、他の利用者に気付かれないように注意している。	日々の中で、言葉遣いや接遇について職員間で話し合い敬語で利用者を目上の人として敬いながらの対応を心掛け、不適切な言葉かけや対応等が見られたらその都度注意し職員からも問題提起を受けています。排泄の支援時の声かけは声の大きさにも注意し、利用者の希望に応じて排泄時や入浴の支援は同性介助にも対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを伝え易いような雰囲気作りを行っている。入居者さんが言われたことは否定せず一旦受入れる。要望に添えないときは納得していただけるよう丁寧に説明している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりの個性やペースを尊重し、安心感のある寄り添いや関わりをしている。なるべく希望にそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの好みに合った身だしなみやおしゃれをしていただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆっくりと食事を楽しんでもらえるように声掛け、様子観察している。本人さんの出来る範囲で下膳や台拭きをしてもらったりしている。	三食共に母体の法人で作った食事が事業所に届いて配膳し、利用者は下膳等の出来る事に携わっています。法人の食事は季節の物等に配慮されており、利用者の状態に応じて食べやすいように形態を工夫しています。時にはケーキを手作りして提供したり家族と外食に出掛ける利用者もいる等、食事が楽しいものとなるように支援しています。	利用者の食べたい物を献立に取り入れたり、一緒に食事作りをする機会や事業所として外食支援を行うなど、更に食事が楽しみとなるような取り組みを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は毎食チェックしている。水分少なめの方には声かけし、食事時間、オヤツ時間以外でも摂取していただいている。		

富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、本人の力に応じた口腔ケアを実施している。義歯は寝る前に預かり消毒して起床時に装着していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、それに伴って声かけ誘導、自立に向けた支援をしている。オムツを使用している方も定期的に交換、洗浄している。	排泄チェック表を記録し利用者個々のパターンを把握し、時間や様子も見ながら声かけやトイレへの案内をしています。利用者に応じた排泄支援を継続することで、立位が取れるようになりおむつから紙パンツに変わる等、排泄状況が改善した利用者もいます。利用者それぞれに適した排泄支援の方法や排泄用品の種類は日々職員間で検討して申し送りを行い、排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、看護師にチェックしてもらっている。主治医の指示の元、便秘しないような飲食物の工夫、体操などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一週間ごとに入浴計画を立てているが、気分・身体の状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援をしている。痒みや便失禁の続いた時は、看護師に報告、指示を受けている。	入浴は利用者の状況に応じて週2~3回を基本に午前中の時間帯に支援し、利用者の希望により回数を増やすことも可能です。入浴拒否がみられる時は日時を変えたり、声をかける職員代える等工夫して無理なく入浴してもらっています。好みのシャンプーの持ち込みも可能で、一人ずつゆっくりと入浴出来るように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活パターンの把握に努め、適度な休息の時間をもてるよう支援している。日中はなるべく体を動かし、夜は自然に眠れるように部屋の環境にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬については全職員がほぼ把握している。症状にに变化がある時はすぐに看護師に報告、病院と連携し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の好みの活動をしていただいている。ご家族にも生活歴や趣味、嗜好品などを聞いて希望に沿えるよう支援している。		



富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調を把握しながら、戸外に出かけるようにしている。ご家族、病院の職員さんにも協力してもらっている。遠出の場合には主治医の許可をもらってから外出するようにしている。	日常的な外出支援は、職員体制があり行ける時に散歩や近隣の商店へ買い物に出掛け、地域の神社の祭りを観に行き楽しむ等、地域で行われる行事にも行っています。家族と自宅や外食に出掛ける利用者もいる等、外出の機会が持てるように支援しています。	コスモス園への外出を予定されていますので、その実現と今後も利用者の希望を聞いたり季節毎の外出ができるよう取り組まれることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は管理者が入居者ごとに預かっている。使用する際には前もってご家族に連絡している。納品書・請求書・領収書・金銭出納帳の写しをご家族にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話をしたり手紙のやりとりが出来る入居者は現在いらっしゃらないが、今後そのような方が入居された場合には支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの飾り物、観葉植物、季節の花、季節に応じた入居者さんの作品や写真を食堂やデイルームに貼り季節感を取り入れている。	玄関やフロア入口に生花を飾ったり、パズルや行事の写真、季節毎に利用者や職員で作る貼り絵等の作品を掲示し明るい雰囲気を作っています。利用者同士の関係性に配慮して机や椅子を配置し、離れた場所にソファを置き一人で過ごせるように工夫しています。利用者の体感も考慮して室温を調整し、毎日換気や掃除を行い清潔を保ち快適な共用空間を作り努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにテーブル、ソファ、椅子を置き、お好きな時間にくつろいでいただいたり、独りになれたり、おしゃべりができるような居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている家具や、好みの寝具を持ってきていただき、照明、室温にも配慮し居心地良く過ごせるようにしていただいている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう説明し、テレビや椅子、ぬいぐるみ、家族の写真等を持ち込み職員が設置し、希望や状況に応じて布団を敷いて休むことも可能です。雑誌やお経、大切にしている鞆やアルバムを沢山を持ち込み楽しんでいる利用者もいます。毎日換気や掃除を実施して清潔保持に努め、その人らしく快適に過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、わかる事を全職員が把握し共有し、安全に気分良く自立した生活を送っていただけるよう支援している。		